

やまなし
医療最前線
現場を支える
県立中央病院から

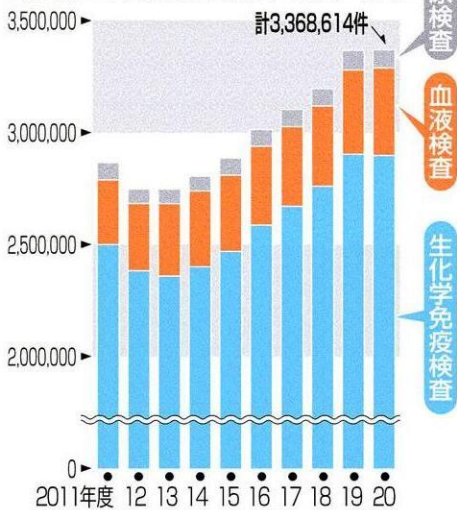
〈240〉



杉浦弘樹主任
臨床検査技師

査に関する国際規格を取得するなどして患者の健康状態を高い精度で可視化している。同院検査部主任臨床検査技師の杉浦弘樹さんは「早く正確な検査を日々心掛けています」と話す。

山梨県立中央病院 検体検査件数の推移



ている。結果は重大な病気に気付く端緒となったり、治療効果の確認に用いられる。杉浦さんは生化学免疫検査を担当し、腎臓や肝臓の

尿検査、血液検査、生化学免疫検査

患者の健康状態可視化

臨床検査世界基準の精度

医療現場で行われる検査は病気の特定や治療方針の決定、病状の確認につながり、重要な役割を持つ。高度急性期病院として多種多様な検査を数多く実施する山梨県立中央病院は臨床検査

同院検査部には46人の臨床検査技師が在籍。心電図や超音波を担当する生理検査、臓器から採取した組織を顕微鏡で調べる病理検査、感染症に関わる微生物検査、尿中のタンパク質、血糖、糖を調べる尿検査、血液から取り出す血清を用

病気などに関連する成分の血中濃度を調べている。確認できる成分は60種類以上あり、医師の指示を受けて必要な項目を絞って分析。診察時に医師の手に届くよう1時間以内に結果を出す

となつている。検体検査だけでも2020年度は約337万件となり、11年度から50万件以上増えた。必要な検査を迅速に進めるため、18年度には分析機器を更新し、検査能力を拡充した。

すよう心掛け、「命に関わるような異常な結果があれば早急に担当医に伝えたい」(杉浦さん)。

このほか、杉浦さんは新型コロナウイルスに感染した入院患者の抗体検査を行っている。同院は重症患者を中心に受け入れていて、結果は医師が患者への投与薬を決める参考情報の一つとして活用されている。

ことなく、世界基準の検査ができる体制となつている」と胸を張る。

19年には検査の手順書を作成するなどし、臨床検査の精度を認証する国際規格「ISO15189」を取得した。杉浦さんは「経験や技術の差に影響を受けることなく、世界基準の検査ができる体制となつている」と胸を張る。

検査は全自動化が主流となつていて、昔のように臨床検査技師が試薬を入れたり、数値を読み取ったりする機会は少なくなった。一方で、分析機器のメンテナンスや検査結果の入念なチェックなど専門性を生かした精度管理に力が注がれている。

同院の検査件数は増加傾向にあります

19年には検査の手順書を作成するなどし、臨床検査の精度を認証する国際規格「ISO15189」を取得した。杉浦さんは「経験や技術の差に影響を受けることなく、世界基準の検査ができる体制となつている」と胸を張る。

11第2、4木曜日に掲載